

## 6月にSGH特別講座を実施しました。

### SGH特別講座 ～日本の国際貢献・国際理解を考える～

平成30年6月14日（木）16:40～18:00 時習館高校視聴覚教室

#### 《目的》

授業後の時間を利用し、講師による講話を聞き、ディスカッションを行うことで、課題研究テーマへの興味・関心を喚起し、課題研究テーマの5分野の中で、特に「**経済発展と環境**」、「**日本の貢献・国際理解**」の2分野について理解の深化をめざす。

#### 《講師》 田淵琢真 氏

\* 青年海外協力隊として、ウガンダ共和国に派遣され、稲作の普及や道路補修、食品加工を中心とした地域の活性化、村落の開発に従事。協力隊参加後、名古屋市で企業に勤務されたのちに、再度ウガンダに短期ボランティアに参加。現在は岐阜県の本巣市にて地域おこし協力隊として活躍されている。



#### 《演題》「ウガンダにおける村落開発」

最初は**ウガンダの町並みや音楽、食文化、国民性**などを紹介していただき、日本人の持つアフリカやウガンダという国のイメージが固定観念であることを教えていただいた。その後、青年海外協力隊として実際に**ウガンダで行った村落開発**（道路の補修等）の活動内容を紹介していただき、途上国が「援助頼り」になってしまっていることや、援助が必ずしも現地の人々の幸福に結びついていない事例など**国際貢献が抱える問題**について教えていただいた。その後、そのような問題について解決策をグループで議論し、生徒間で意見交換した。

#### [参加生徒の感想]

援助 = 幸せではないということを知り、現地の方の生活に寄り添い「幸せ」を考えることで本当の国際協力ができると思った。

支援は大切だが、支援する上でメリット・デメリットをきちんと話し合ったり伝えたりすることが必要だと感じた。

「人の為に」と思って行うことが必ずしも相手を幸せにするわけではないということは、国際支援に限らず普段の生活にも通じることがあると思うので、「支援」をするうえで一番大切になるのは相手のことを思い考えることだと思った。

支援は先進国の一方的な価値観（幸せ）の押しつけになってはいけないと感じた。

Think Globally, Act Locallyという考え方は、国際協力のハードルを下げる良い考えだと思った。



グループワークの様子